

「「こんにちは」から始めよう」

愛知県みよし市立北中学校 3年 神取 友輝子<sup>かんどり ゆきこ</sup>

土砂災害。この言葉を聞くと、私は今でも、1年前にテレビで見た広島の土砂災害の様子が、鮮明に思い浮かんでくる。山から茶色の泥が一気に流れ込み、家をさらっていく。折れて流れてきた木々が家を押しつぶす。町全体が茶色に染まっていく。これまで、土砂災害なんて少し地面が緩くなるだけだ、と思っていた私は、衝撃を受けた。こんなにも大きな被害が出るなんて。更に、この土砂災害では、70人以上の方が命を落としたそうだ。

そして、この災害から1年が経つのを前に、大きな被害を受けた広島市で、犠牲者の慰霊碑が建立されたこと、新聞で知った。新聞には、私より1つ年上の女の子が、土砂災害で父と姉を亡くしたと書いてあった。もし私が来年、土砂災害で家族を失ったら。想像したしたくもない。きっと、この女の子は1年間、大きな悲しみと戦ってきたのだと思う。しかしこれから、いつ訪れるか分からない土砂災害に備えて、今の私に何ができるのだろうか。災害の備えのヒントがもらえるかもしれない、と思い、祖父に土砂災害についての話を聞きに行った。

今から何十年も前に、祖父が勤務していた地域で大規模な土砂崩れが起こった。大雨により山から泥と木が流れてきて、多くの家が崩壊した。また、大木が川に倒れ込んだことにより、川の水がせき止められて、水が溢れてしまったそう。その水に流されたり、崩壊した建物の下敷きになってしまったりして、多くの人が命を落としたという。祖父の仕事仲間も、その土砂災害で命を落としてしまったそう。そして、この災害で多くの被害者がでってしまった原因の1つとして、土砂災害の危険性など、ほとんどの人が感じていなかったことが考えられる、と祖父はいう。その地域では、過去にほとんど土砂災害など起きなかった。そのため、地震などの訓練はできていても、土砂災害が起こったとき、どうすればよいのか分からなかった人が多数いたそう。どこかに避難しようにも、外は大量の雨で前もよく見えない。しかし家に中にいても、家屋もろとも水に流されてしまう。結局どうすることもできなかったのだという。特に、お年寄りの方は、自分1人で動けず、多くの犠牲者が出たそう。

祖父からこの話を聞いたとき、昔から災害によって人の命が失われていたのだと知り、悲しく思った。しかし祖父の話から、土砂災害の備えとして大切なことを、いくつか見つけることができた。

1つ目は、いつ災害が起きても、大丈夫な状態にしておくこと。祖父達は、土砂災害など起こらないだろう、と思い、何も備えをしなかった。この油断が大きな被害を招いたのだと思う。いつ災害が起きても大丈夫なように、家からの避難経路や避難場所を家族と確認し合うことが大切である。

2つ目は、避難勧告が出たら、すぐさま避難をすること。避難が遅れると、家の外が水で溢れて進みにくくなったり、雨量が増えて視界が悪くなったりする。危ないと思ったら、すぐに避難をすることが大切だ。

3つ目は、地域との連携である。もし自分が避難することができたとしても、足の悪いお年寄りの人は、自分1人では避難ができないかもしれない。また、もし避難勧告が出たとしても、自分が気付かなかつたら、逃げ遅れてしまうかもしれない。そうなるのを防ぐため、避難する際には、近所の人同士で声を掛け合うことが大切である。また、1人だけでは避難が難しい方がいる場合、その人に付き添って避難をする人も必要である。お互いに助け合い、支え合い、地域が一体となって避難することが、被害を最小限に抑える鍵だと思う。

しかし、災害が起こったときだけ協力をするというのでは、地域との連携はなかなか上手くいかないと思う。そのため大切なのは、普段から地域の方とコミュニケーションをとることだ。それは無理に話しかけなければいけないというものではない。朝登校する際に近所の方に「おはようございます。」すれ違った際に「こんにちは。」と挨拶をするだけで良い。それを毎日繰り返していけば、近所の方にも私たちの存在を覚えてもらえる。そうすれば、避難の誘導をするときに、安心してついてきてくれると思う。また、休日の日に地域のごみゼロ運動などに参加すれば、よりコミュニケーションをとることができると思う。

今回祖父から土砂災害についての話を聞き、いつ災害が起きても大丈夫な状態にしておくこと、危ないと思ったらすぐに避難すること、そして、地域と連携していくことが大切だと学んだ。いつ土砂災害が起こっても安全に避難できるよう、避難場所と経路を家族で確認しておきたい。そして、地域の方とのコミュニケーションを大切に、いつ何が起きても、安全に避難できるようにしたい。そのためにまずは「こんにちは。」から始めていこう。